

2022年度 JASMIM 助成イベント実施報告

寺内 大輔

助成イベント名：Social Kitchen 口琴ナイト

実施日時：2023年3月20日 18:30～20:00

開催場所：Social Kitchen（京都府京都市上京区相国寺門前町 699）

助成金：1万円

このイベントを、どう位置付ければよいただろう。ワークショップといえばワークショップなのかもしれないが、やや語弊があるような気もする。90分のイベントのなかには、寺内による即興演奏の披露、参加者全員で音を出す時間、名手スピリドン・シシーギン氏の即興演奏の録音を聴く時間、スライドを提示しながらのレクチャー、参加者によるフリートークが、少しずつ含まれている。

「案内人」である私は、口琴の専門家ではない。演奏はするが、私よりも上手な人は YouTube 上にいくらでもいるし、研究についても、先行研究の知見の寄せ集めの域を出ない。唯一、私が口琴の世界に一石を投じたと言えるのは、2007年に発表した「くちづけ口琴」と名付けた新奏法だが、もう古い話である。

参加者は9名、人数だけ見ると少ないように感じられるかもしれないが、イベントの内容や会場の広さ・雰囲気にも照らすと、実に「ちょうどよい」人数であった。参加者のうち、口琴愛好者はおよそ半数、残りの半数は、さらに「口琴を全く知らない人」と「口琴を一応は知っている人」が半々ぐらいにわかれていた。

内容については、参加者の方々にご満足いただけたように思う。はじめて口琴に触れる参加者は、経験豊富な参加者（や、YouTube 動画）から手ほどきを受け、口琴を楽しんでいた。レクチャー内容は、どちらかと言えば口琴を全く知らない人に向けた内容を中心としていたが、一部にややマニアックな内容も含まれていたため、口琴に馴染みのない参加者から、長年愛好してきた参加者まで、興味を持ってきていたようだ。

惜しむらくは、時間の関係で、参加者によるフリートークの時間があまり取れなかったことであった。私は、口琴を愛好している参加者の口から語られる、それぞれの口琴にまつわるエピソードをたくさん聞きたいと思っていたのだが、ごく短時間で終わらざるを得なかった。時間配分の失敗には反省しつつも、90分があったという間に過ぎていったことを実感した。

文政七（1824）年から八年にかけて、滝沢馬琴らの好事家が開催していた「耽奇会（たんきかい）」の記録集成『耽奇漫録』のなかに、口琴は3度登場するという。「耽奇会」とは、いわば「珍しいものを持ち寄って見せっこする会」である——いかに楽しそうな会だが、私が今回やりたかった「口琴ナイト」は、もしかしたらそういうものだったのかもしれない。コンサートとも、ワークショップとも、レクチャーとも、座談会とも、これといった位置づけが難しい今回のようなイベント、しかし、ここで感じられた地味な喜びに満ちた空気感は、こうした場だったからこそ感じられたようにも思う。Social Kitchen という会場もまた、そういった場にたいへんふさわし

いと感じた。

JASMIM 助成金，ありがとうございました。



図 1 寺内持参の口琴の紹介



図 2 参加者全員の口琴演奏